## 次ページへ続く

Continued on next page...

## 影 印 改 編 博愛堂集古印譜

渡 辺 邦 雄

島

原

刻、実鈐したもの。 近を尋ねて印影を博捜し、集まるところ七百顆、ことごとくを模印に精 友『埋麝発香』その他あるが、その全てを採録するとともに、さらに遠 献として、藤貞幹【集古印譜】、松平定信【集古十種】印章部、穂井田忠 寺社の蔵経印、さらには外国印等までを網羅する斯界の集大成である。 長谷川延年『博愛堂集古印譜』は、天皇御璽、 延年自身、本書の凡例において語るところであるが、この種の先行文 八省百官印に始まり、

紙幅の節倹を計ることを急にして、原典の馥気を損ずるの甚しきを恨む て、世人多くその実を知ることなきを嘆いて、あえて紙面を塞ぐ。ただ、 この魯、いまだ梓に鏤るの試みあるを聞かない。名声の普く盛んにし

字は守真、号は延年、楓洞、韜光斎など。その人物と学業については、 次第である。 内文化」第十二号昭39・11 水田紀久氏の御論号に詳しい(平安書道会「書道」第五号昭3・2 長谷川延年(一八〇三一一八八七)は浪華の人、名は真人(まひと)、 「社会文化史学」第四号昭43・6)。 河河

> △ 月川之印東埔寨国主之 印 4 時刊之印 晚球国王之 印 石川氏野戴亞上印銀图 和蘭人書簡所用印。如葡萄中二〇批智文件-朝鮮國王之印 清康熙御筆之實 杉田氏呀藏西土印红园 奉使之印 宣赐之記 滿川官吏所用印 **会東印度通商印 全签山節制使印** 仝 臣提雅老元輔印

支那所製異體 印缸圖 。浙江寧波府日本深及發送信牌所用印 通計 十三卷 凡例

所。 欄外、 行間に追加が見られる。右はその第十三巻外国印の部の終りに当る箇

一、長谷川延年著『博愛堂集古印譜』十三巻の影印である。

一、底本に、国会図書館所蔵の著者手沢本(別9/12)を用いた。この

伝本には、増補二巻が添えられている。

一、底本の構成は、次の通りである。

首巻総目 第一玉璽

第二太政官印 第三八省諸寮印

第四諸国井倉印 第五諸郡井郷印

第六外衙印 第七神社印

第八寺院印 第九私印

第十武将印 第十一蔵経書印

第十二諸家蔵印 第十三烙印付外国印 同印鈕図

第十四増補部 第十五増補部

、配列は底本の総目に従った。

、底本の首巻総目は、著者自身による訂正、加除の書込みが少なくな く、手沢本としての面目躍如たるものがある(図版参照)。その指示に

従い、第十四・十五の増補二巻に載るところをも加えて配列を整え、

十三巻にまとめた。標題に「改編」と冠する所以である。

一、総目に漏れた印影については、巻ごとの終りに一括した。これらは、 それゆえ、時代もしくは地域によったと思われる、著者延年の配列基

準に合致していない。

一、底本は、原則として一面に一印を配し、余白を充分に採って、印譜 としての雅致を保っているが、それを追い込みにした。紙幅の節約を

計ったゆえである。

一、印影を原寸で掲げた。ただし、写真を撮っての復元であるところか ら、寸法に厳密を期することができていない。

一、単色印刷なので、印色を復元するすべがない。底本の印色を、白ぬ き活字により、印影に添えた。ただし朱色の場合、煩を嫌ってそれを

略した。

、底本には、印影ごとに、使用(所蔵)者名、採取资料名、考証等が、 延年の自筆により記されているが、それを活字で組んだ。これもスペー

ス節約のためである。

、それらの記事は、総目、あるいは重複印に記されるところを参照し て、適宜不備を補った。また「同」として省略してある場合、直前の

項に従って、必要な文字を塡めた。

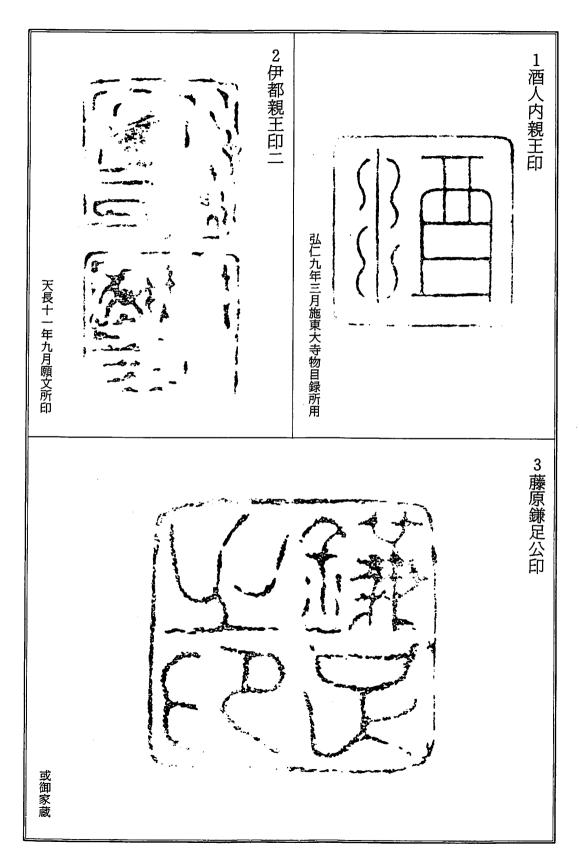
一、各巻、新たに使用(所蔵)者ごと、洋数字による一連番号を与え、 一、序文(延年自序)と跋文(山川正宣)とは、等倍で影印した。

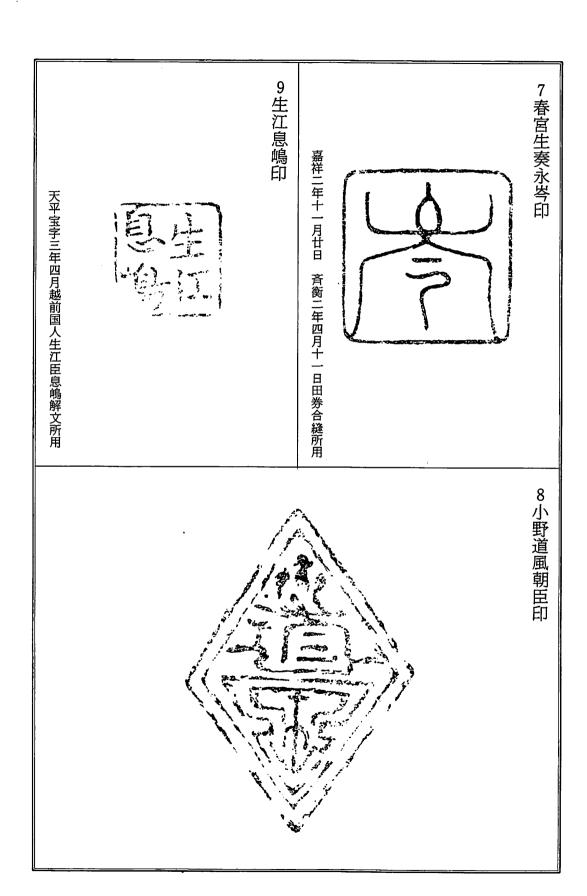
整理の便とした。

一、今回は、全体の約半分に相当する、巻九以下の下編五冊分を載せた。 後半を前半に先行させたのは、蔵書印を比較的多く含むがゆえである。

一、曹誌については、次号に解題を用意するつもりである。 追記 影印に当り、底本の使用許可を与えられた国会図書館にお礼を

申しあげる次第である。





天平宝字四年三月池守解文所用	78	11画師池守印	天平宝字三年五月足羽郡書生鳥辺連豊名解文所用	10鳥豊名印
天平勝宝元年十一月拓殖郷長桃尾井麿解文所用		13 桃尾印	年月不詳解文所用	12足万呂印

真蹟感夢記所捺		15菅氏通真印	弘長癸亥姑洗壬子故紙所用	種包	14和気種成印
雕十二支篆字 木材 長田氏蔵 比印桜宮堤上中土所出木如黒檀 印材四方	THE PARTY OF THE P	17渡辺充印			16日野有国卿印

19藤原有道印	<b>涛閣蔵印</b> 朝野群戦日天禄四年左大臣御子息召尉政明仰光別当宣旨 聆	川田川田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	18政明印
21 藤藤房卿印		医顺急	20源親房卿印

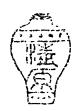
22河内守広信印



23外記局中師英印二

步所共

25清原枝賢卿印





天正元年十二月文書所捺干時宮内卿



24清原経賢朝臣印

31弘法大師印二

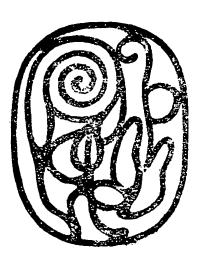


30然可翁印



建仁清住院蔵南禅晩年退居建仁中天潤庵貞和元年四月廿五日寂。右印木材南禅晩年退居建仁中天潤庵貞和元年四月廿五日寂。右印木材本朝高僧伝云宗然字可翁出世筑之崇福移洛之万寿建仁奉詔升

宋板大恵普覚語録所捺





黒

黒

挙本有数種今採其正者

	33尊純法親王書簡所用印	生参 别本小果	32日蓮上人印三
なき	35宗像大宫司氏雄印	北野天神々庫蔵日本紀写本所印	34平部野朝臣印





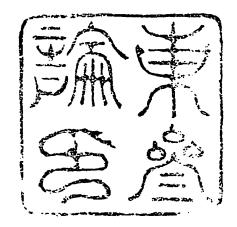


延喜十七

41詮伝燈印

延喜十七年四月田券所用

42東参論印



貞観年中売田解状所用

天平宝字六年津守宿禰千足古写経所捺

43寛平年間林券印

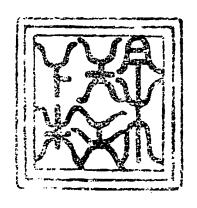
44延喜年間田券印

寛平元年十二月十五日

延喜七年六月十三日林券所捺

延喜十一年東大寺買得田券合縫所捺

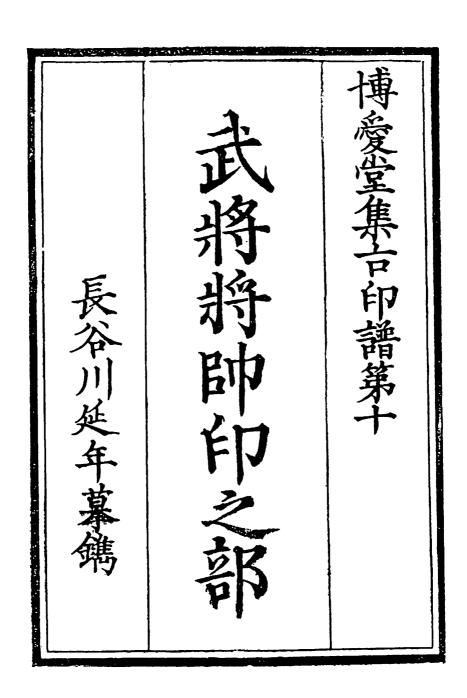


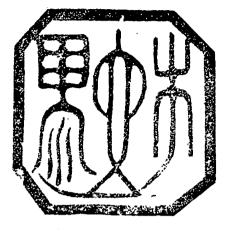


45永禄年間文書所用印

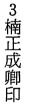
47紀伊国糸群田券所印 46天文年中山城国東土河庄田券所印 正暦元年八月十二日 日 寬治六年七月三日 永長元年二月十五日 治安二年六月十五日 天喜元年三月十 CONTRACTOR AND AND 49福王神右盛忠印 48山科郷藤原氏印 捺 京烏丸二条住井簡屋得平兵衛蔵 天平十二年八月一日大方広仏華厳経跋 慶長六年十一月日福王但馬入道謡曲口授本所印 弘治二年二月系譜所

51遊行五十七世他阿上人印 50道字印 定家卿色紙所印 河州玉手安田氏蔵 53賀茂県主氏之印 52古筆改所別所法眼印 正中元年甲子九月菅公御真筆自画賛極所印 天文元年十二月八日水無瀬宮御法楽和歌古写本所捺印 天満天神社蔵





2秀衡之







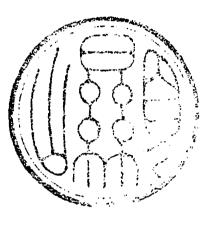




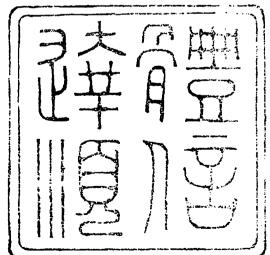
5足利義持公印

八幡殿馬上軍容図上所印(按或日尊氏卿号仁山印文非仁山疑

瑞山歟瑞山即義詮公之号恐是旧来伝聞之誤也



6足利義教公印



寬正六年月日遣明書所印





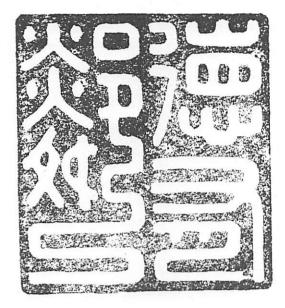


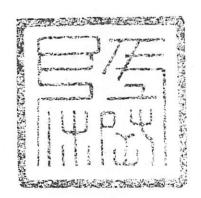




按世人以天山為義政公之号誤也義政公号喜山耳天山則義満公之号也

洛西天竜寺所什



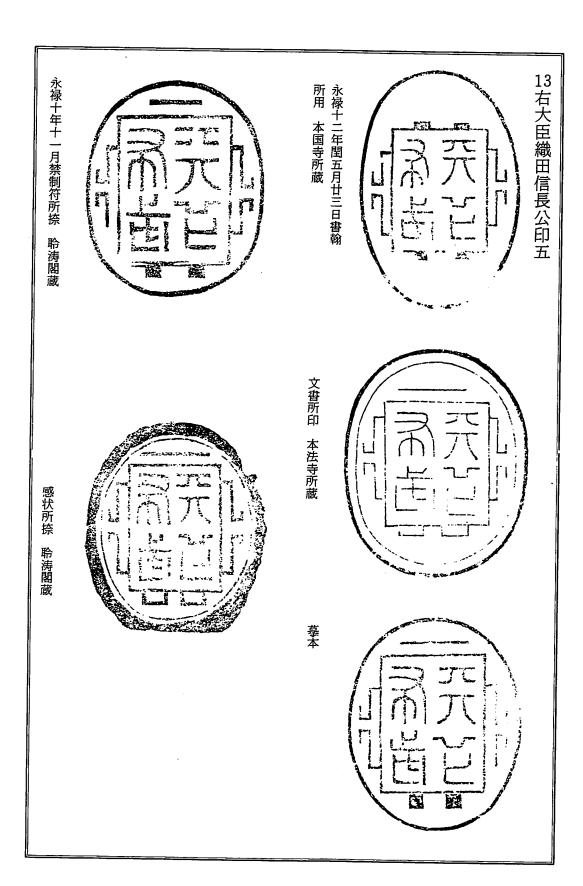


上野国足利郡金剛山鑁阿寺什物永禄七年九月日古文書所印



12武田家印









16豊臣秀次公印



(A)

称高台院殿 洛東高台寺什古券所印



黑

15豊大閤北政所印

17豊臣秀頼公印

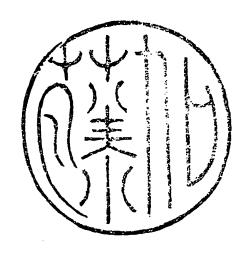


書簡所用

18浮田中納言秀家卿印

19加藤肥後守清正印

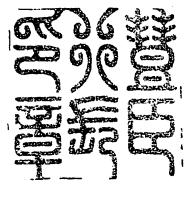




慶長十三年十月十日下状所捺

20小西摂津守行長印

22浅野右近忠吉印



21福島左衛門大夫正則印

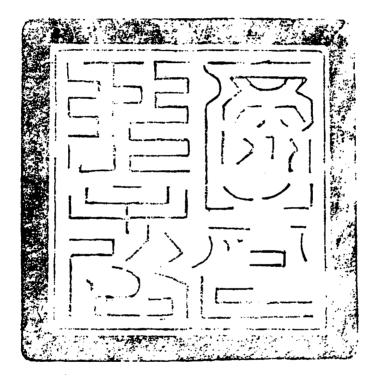
按豊公征韓之日甞明人所贈云々 並河氏所蔵印材象牙



黒

文書所捺

文禄三年二月五日書簡所用



元和六年正月十日与日本商船至呂宋国舶文書所捺

25本多佐渡守正信印













慶長十八年三月 元和元年八月文書所捺

慶長十三年九月五日与呂宋国守書所印 泉州堺顕本寺蔵



26板倉伊賀守重勝印

六十 豊後岡藩古田氏家蔵

修理大夫秀成子従五位下内膳正承応二年癸巳三月十八日卒年

1日野法界寺文庫印



志等文庫二百年余前所創造也詳黒川道祐日次記事雍州府志及名勝文庫二百年余前所創造也詳黒川道祐日次記事雍州府志及名勝按法界寺文庫者永承年間日野有国卿息三位殿之建立也自金沢治承二年八月廿七日大将実定所書琵琶譜所捺 京師藤井氏蔵

3金沢文庫印



黒

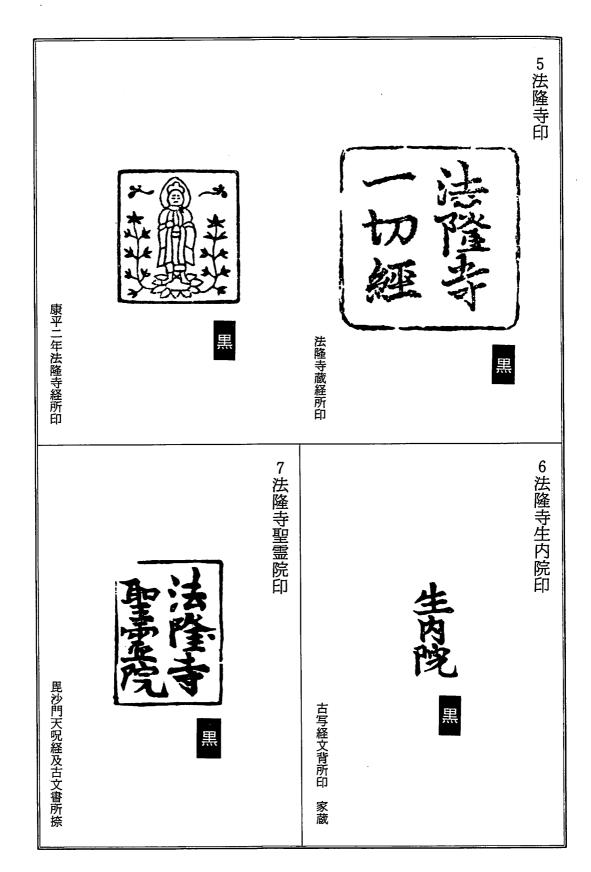
4金沢称名寺印

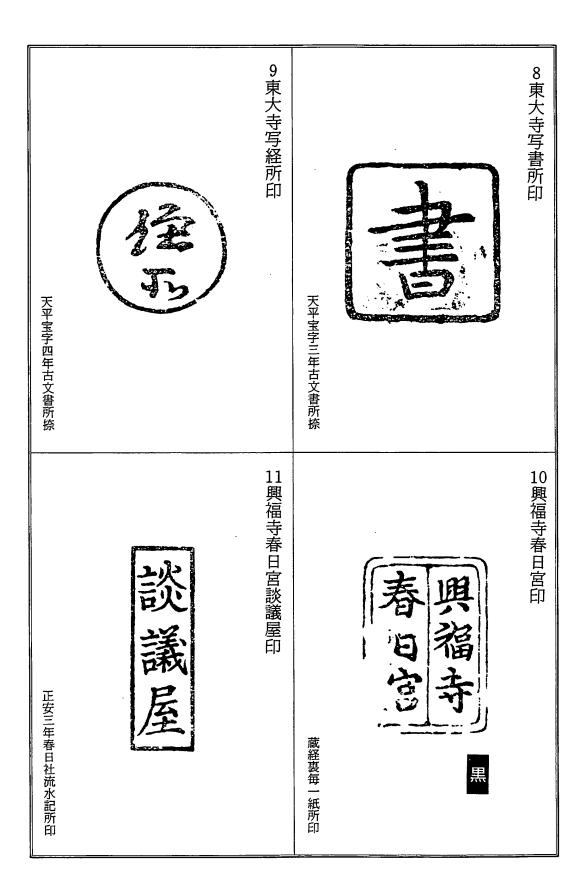
宋板涅槃経疏三徳指帰所捺

2下野国足利学校印

金灣縣公寺

宋板四分律含注戒本所捺



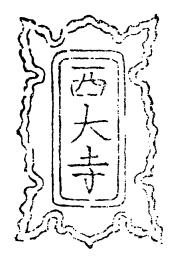




経文継手所印

13南都善光院古印

14西大寺印

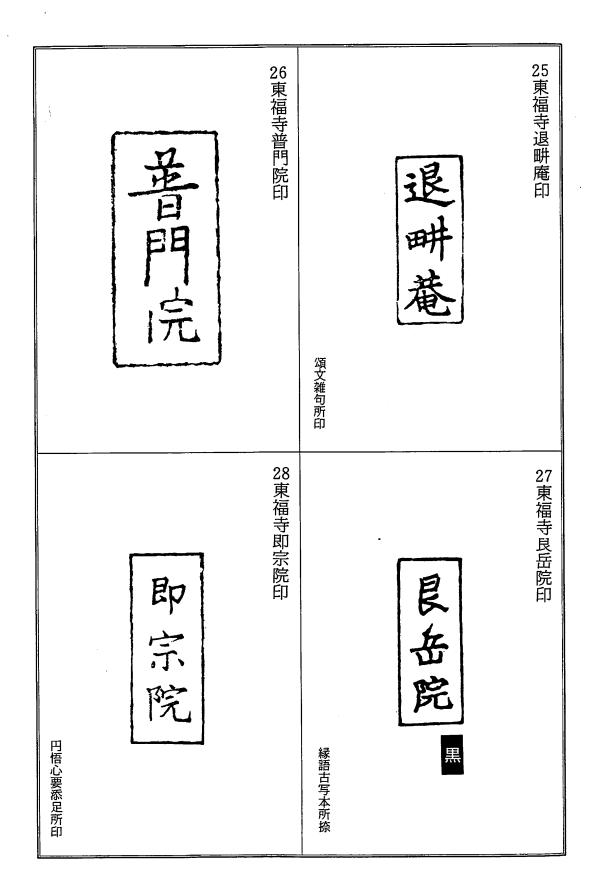


蔵経合縫所用

17伊州新大仏寺印 15西大寺大慈院印 古板菩薩本戒宗要所印 宗鏡録所印 16南都海竜王寺印 沙弥十戒威儀経疏所印 蔵経所印

21万寿寺印		19 栂尾十無尽院印
	·	
換光三天院		
20般舟三昧院印		18 栂尾高山寺印







35南禅寺金地院印

34南禅寺慈雲庵印

7.4.5

黒

虎関国師開基之院 当院蔵書所印

36南禅寺少林院印



尺素往来古写本所印





通鑑箋註所印

37禅昌寺印

南禅寺末 朝鮮版集註楞伽経所印

39仁和寺菩提院印

38勧修寺大経蔵印

天治元年灌頂記古写本所捺



東宝記古写本所捺

40仁和寺真乗院印

和于直然院

븕

仏制比丘六物図古印本所印

明板高王観音経所捺

41妙覚寺日典印

42妙覚寺日奥印

## 與日住常寺遭妙

仏制比丘六物図古印本所印



応永十四年文書所捺

44建仁寺永源庵印



清渓遺藁古写本所印

古写本所印

三峰院	
52小倉山二尊院印	50神護寺納涼坊印
天正年中所写王年代記所捺	
法輪寺常住	和读
51法輪寺印	49高雄山神護寺印

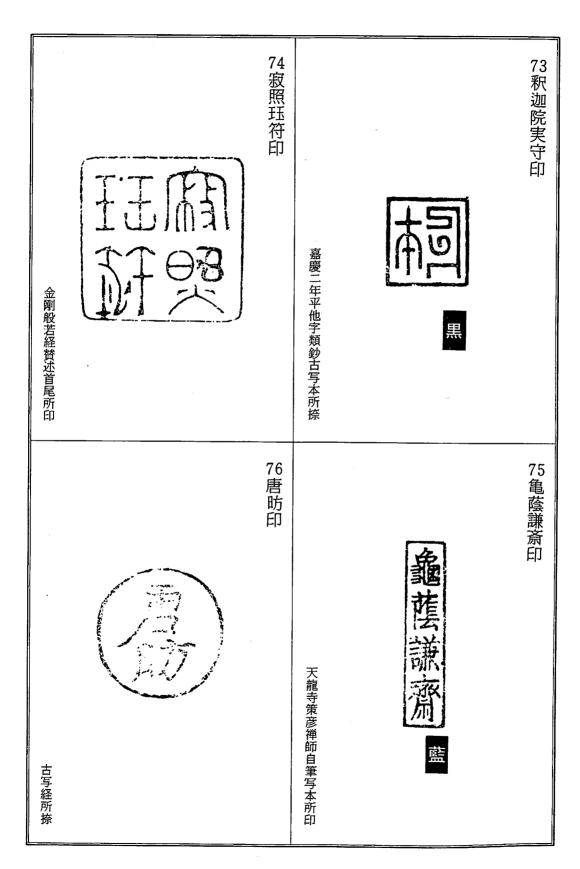
53善峯実相坊印 54梅熟軒印 天正二年東海紀行捺印 56慶雲常住印 55慈照院印 玄清捨入本 相国寺 大明禅寺月庵和尚法語所捺 永正十三年南呂十四日



61仙光院印 62高野山金剛峯寺印 天平勝宝六年古写経所印 63長谷寺往生院印 64観心寺槙本院印 古文書所捺

	天原山
68建長寺印	66筑前国安楽寺勾当坊印
	論語古写本所印
在多次沿江	盛のよ
67桂宮院常住印	65塩穴寺印

古文書所印		70鎌倉明王院印 72天海蔵印		
真如堂縁起所印	泛流	蔵印	N Colon	



古経文所印	元麻	78 元麻印	和名抄所印		7. 政是日
		80 顕真印	所印	のほの	7言函介絲拉目

皇侃論語義疏古本合縫所印		82藤字印	筑前州安楽寿院仏経所印	STC)	83経字印
福寺沙門行禅証中阿含経巻第廿九所印無垢净光大陀羅尼経古写本所捺。天平宝字元年九月十五日興	姜炎	84 善光印	宋板四分律経所印	忍性	833 忍性印

五山版曽源和尚語録所印	宋版仏経所捺
88龍安寺西源庵印	86善字印
孟子古写本所印 龍安寺々中多福庵又或武蔵多福寺右二説	弥勒成仏経所印
TO SECTION	
87多福文庫印	85 泰字印

	大平記古写本所印
順家內庫	
92清家文庫印	90 菅家印
	明月記古写本所印
今箇庫氏	一个
91菅氏文庫印	89葉室庫印

93冷泉府書印

水鏡古印本所印

古版了庵和尚語録所印

95洛東大谷蔵書印

94性宣蔵書印

首楞厳経疏解蒙鈔所捺

新大藏和上大水 斯大藏真於愛

我我我上大水水子五次日 平大

黒



97松福寺経蔵印

98少林院印



弘和二年壬戍二月楠正勝文魯所捺

古写麻多体文所捺

99筑前博多聖福寺印

聖福寺書藏

当寺蔵経所印

10鎌倉等覚院印





凹泉州堺南宗寺蔵版論語所印

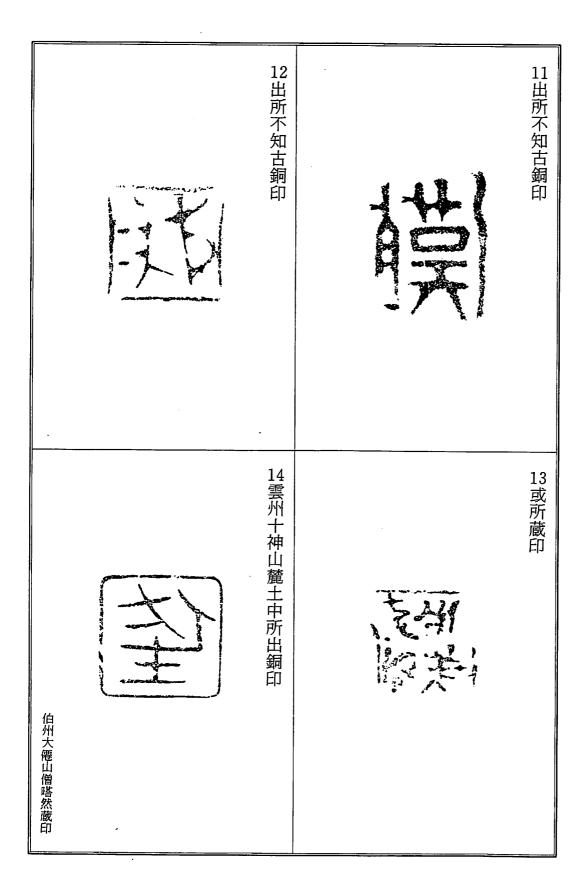
大阿闍梨儀古写本所捺

	五山版東山雲峯和尚集所印
	THE FRUE
	103蓮華庵印
五山版東山雲峯和尚集所印	慶長十八年癸丑高台寺版禅林類聚所印
學原建	回察科
104 孤陋庵印	102 一案軒印



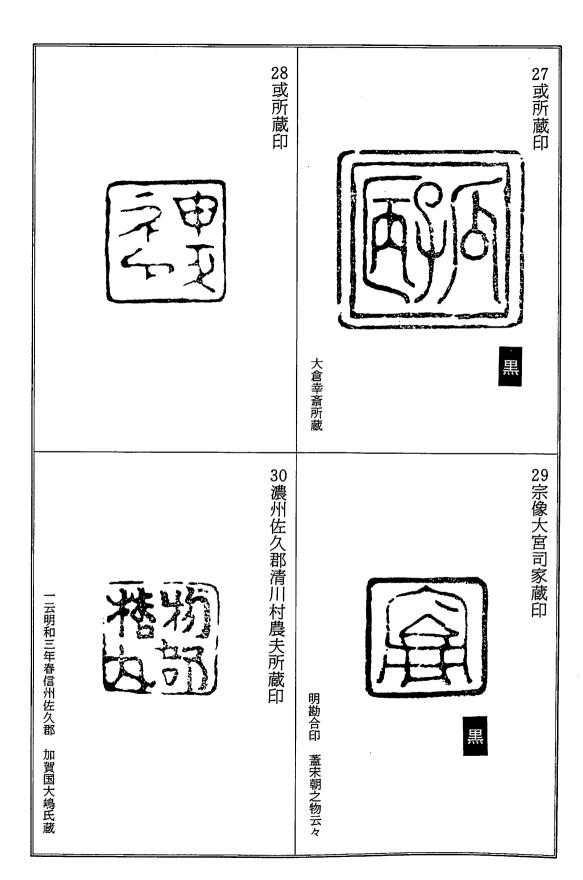


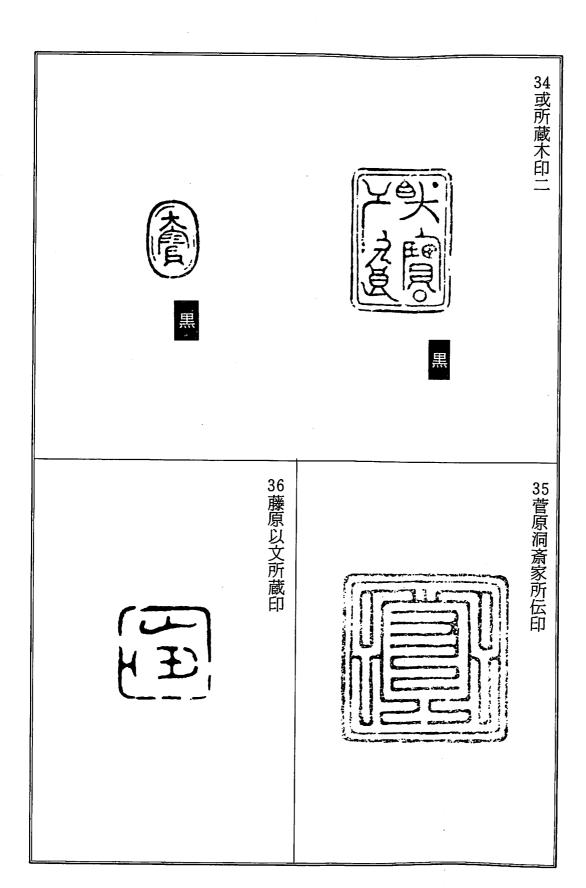
馬魚	8 或所蔵印	7 武州仙波山中所得銀印	
Protection of the second secon	10出所不知古銅印	9 対 前印	



土井屋敷扯所得鉄印	
真	SH SH
18讃州寒川郡田井村所堀得鉄印	16或所蔵印
17筑前州雪野寺所堀得銅印	15或所蔵印

20或所蔵印		19江州栗太郎所堀得印
22或所蔵印	清 位 (本)	21或所蔵印





37和州畝火山下堀地所得銅印 39弘法大師自作煉印 吴田吉田氏蔵







41鞍馬寺蔵印

48山城国宇治郡堀土所得印	46尾州大石氏蔵印
47尾州堀田氏蔵印	45時氏所蔵印 ごうか

	50備中国倉敷岡氏蔵印	2000 2000 2000 2000 2000 2000 2000 200	49播磨国赤穂藩神吉氏蔵印
似住	52 筧氏所蔵印		51備中州長尾村小野氏蔵印

54紀州野呂氏蔵印		3三木夭所蔵印
56或所蔵印	<b>本が</b> (本語)	55或听蔵印

57或所蔵印



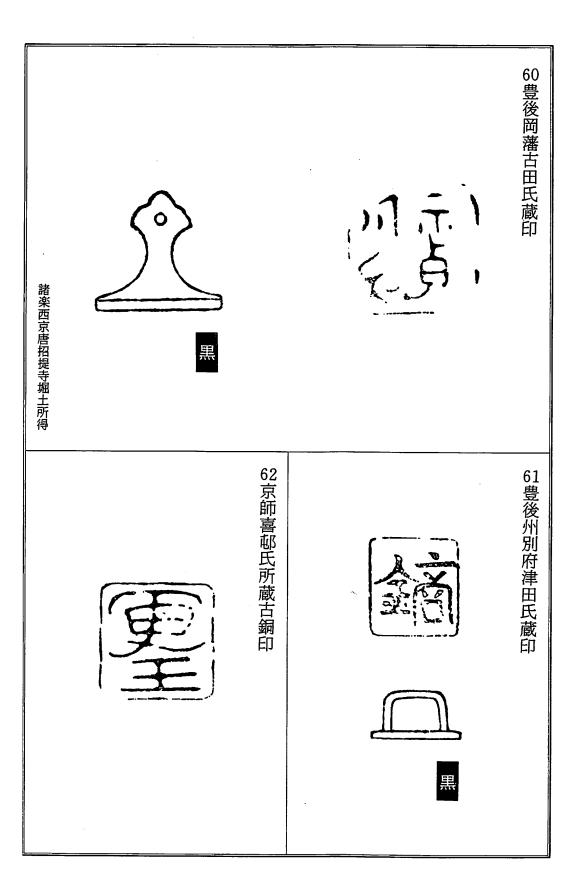
59豊後岡藩古田氏蔵印

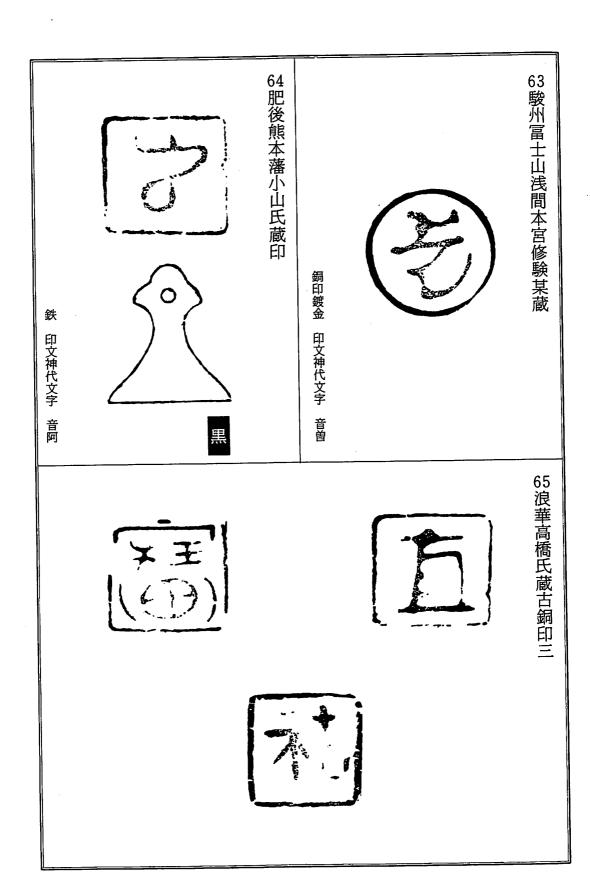


紀州根来製古木印 馬鈕以朱塗

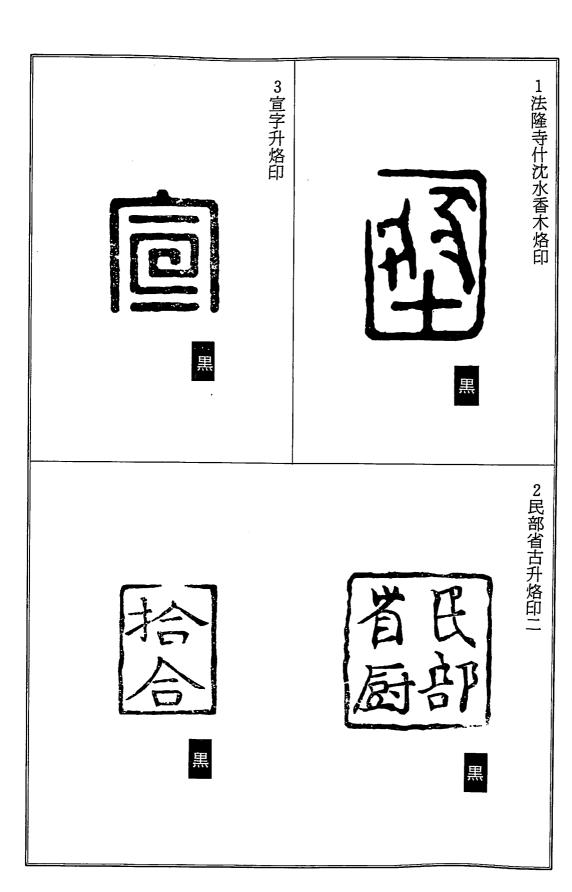


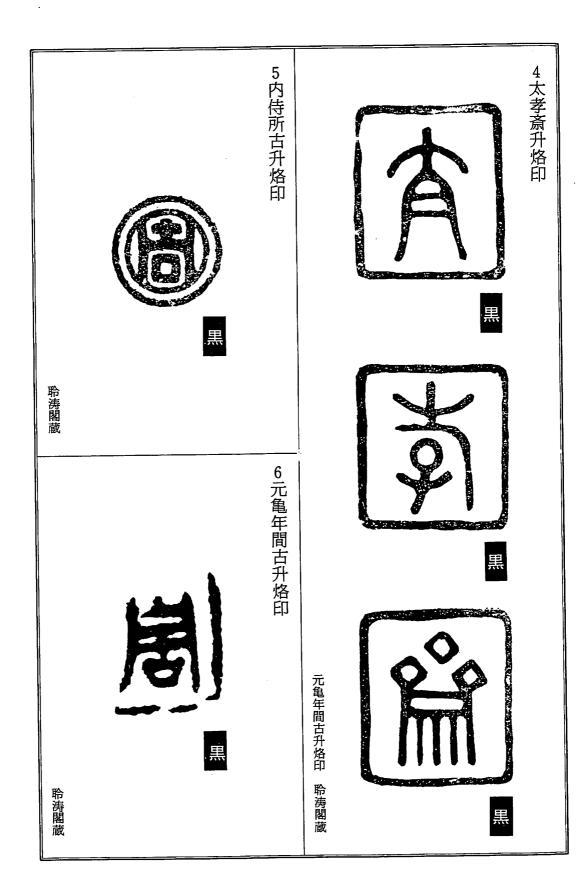
58扶桑木所刻印





## 烙印之如 長谷川延年募雜

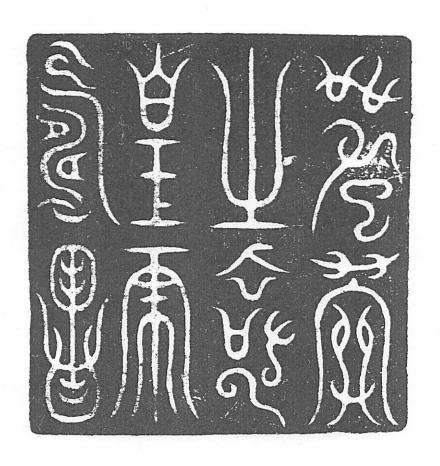












21親魏倭玉印



宣和集古印史所載 鈕製不詳

献太守劉是進吏将送詣京都其年十二月詔曹報倭女王曰上略今 按魏志曰景初二年六月倭女王遣大夫難升米等詣郡求詣天子朝 以汝為親魏倭王仮金印紫緩下略又曰正始元年太守弓遵遺建中 校尉梯儁等奉詔書印緩詣倭国

者三十許国皆称王云者也

国怡土郡也日本紀曰筑前国伊覩県主祖五十迹手者有之此印疑極南界也魏志倭伝至末盧国東南陸行五百里到伊覩国此即筑前

則伊覩県主私通使訳而漢所授印也乎後漢旮倭伝所謂使訳通漢

按委奴倭伊覩怡土皆通音也

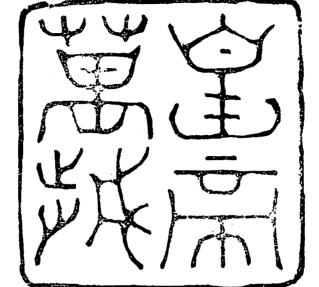
後漢書倭伝曰光武中元二年倭奴国奉献朝賀使人自称大夫倭国

滋賀島土中巨石之下所堀獲

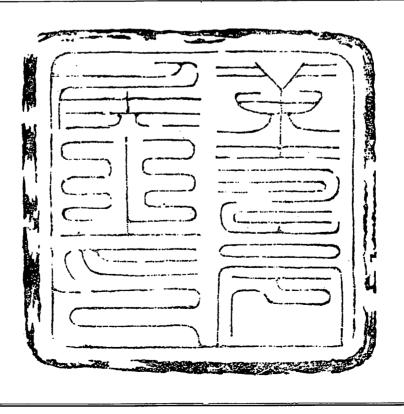
黄金蛇鈕

重二十九銭 天明四年辰二月廿三日筑前国那珂郡

23漢寿帝候関羽印



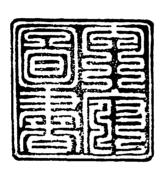
伝教大師所将来

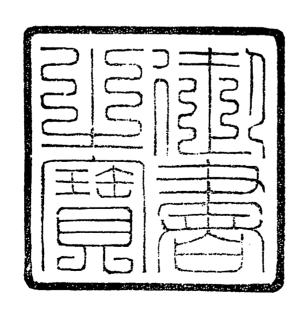


伝教大師所将来





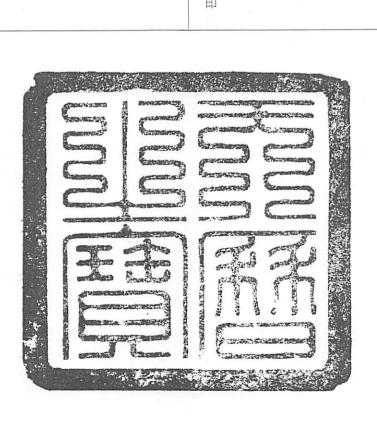




聆涛閣蔵 内府図書 王献之肉筆所捺

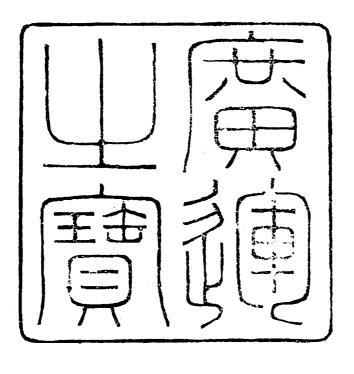


弘治二年九月一日宝賢堂法帖捺印



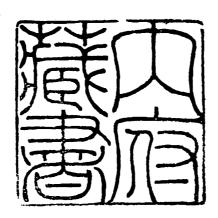
張志和蜀江秋色巻捺印

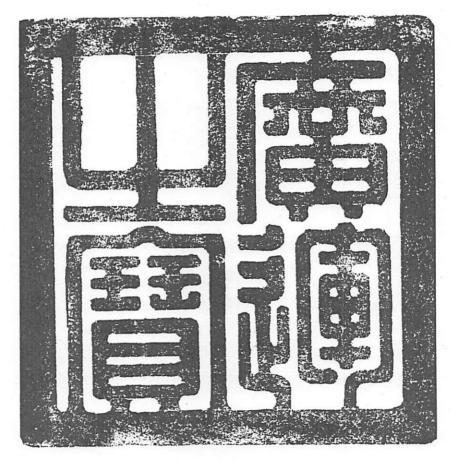
明太宗文帝永楽五年五月二十五日勅書所用

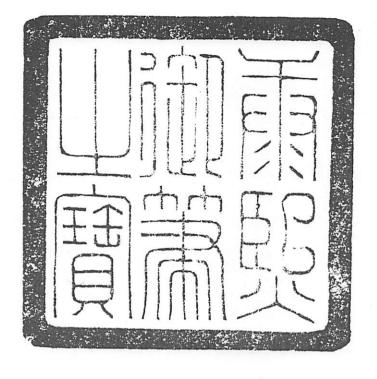


28明太宗 広運之宝

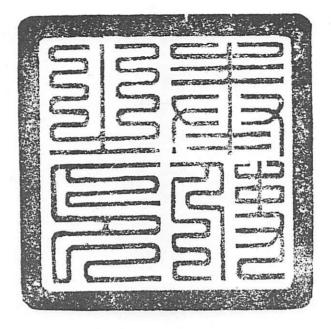
29明内府蔵書印



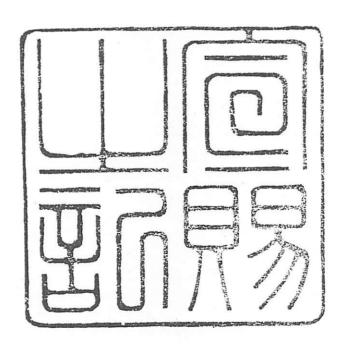






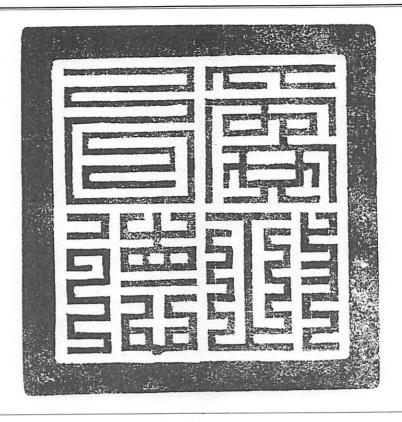


33宣賜之記







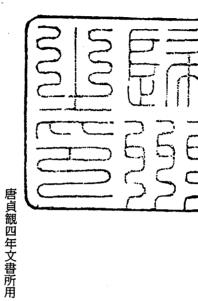






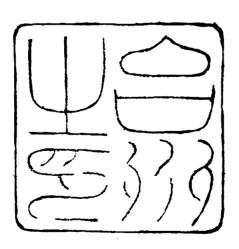






41台州之印

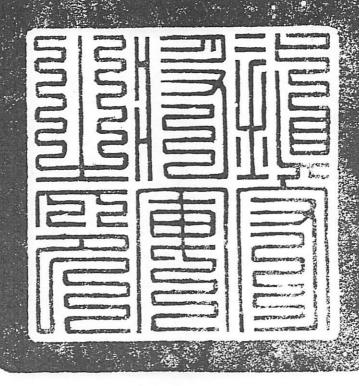
39帰州之印



唐貞元二十一年求法僧最澄牒所捺

42安南国上書所捺印二

鎮守
等
可



総鎮将軍之印



45和蘭東印度通商諸器及書籍等所印

44和蘭人書簡所用印



黒



黒

和蘭刊本月汐測算巻首所印 家蔵







47東埔寨国主浮膀王嘉書簡所用印

48東埔寨国臣握雅老元輔印



49 戢角印



高芙蓉所伝摹

尚不かをしておりかんてれるでかれるたろん 本的的古中意言情外多人名著人意文化 坚夷八自己品品级转一种色艺一本 ちめなるらしいうみをけるさんすなと 乞易めて季外かく今やる年編素小の うろ人信 長品川代るしてやく強字の及る精しき 博くまの多く蓄へ豆地は冷むるのではる 子的支室賞の二流まりてをみるいたく もろう、人といいろく世る書車を死る

此ろろろ属了多多豆般是故事品也是了 年人をよやけるが投れいさをしかかけの いて逼真代於中十三老と生るかんある 聖後まる次ーしてもいうてきも地方りて ゆる古でなるしるりと気をるみてナントとい 安政四年丁已会 しかさととうか 山川正宣被

